

世界の視点

3つの観点で測る  
大学のパフォーマンス

高等教育が国際競争の時代を迎えた今、自学の針路を見定めるうえで、海外からの視点は不可欠だ。世界の高等教育を知るTHEのスタッフが、ランキングの活用方法について語る。

Times Higher Education  
チーフ・データ・オフィサー  
ダンカン・ロス



Duncan Ross

自学の教育力を知り、  
世界に伝える「日本版」

大学が自学のポジションを理解し、また生徒・学生が自分にふさわしい大学を見つけるために、THEは世界中の大学のパフォーマンスを測定しています。その主な観点は3つ。世界大学ランキング（以下、世界版）に代表される「研究力」を重視したもの、「大学インパクトランキング」など、社会貢献」を重視したもの、そして日本版など、国・地域別に展開している「教育力」を重視したものです。

日本の高等教育はいずれの観点でも強みを持っていますが、大学が持つ強みはそれぞれ異なっています。

「教育」「研究」「社会貢献」  
どの分野でどのような特色があるか？  
それにより変わる改革の方向性

ます。各大学のパフォーマンスを知るためには、これら3つの観点を組み合わせて見る必要があります。

さて、大学の教育力とは、一言で言うと、その大学が「学生たちのゴール達成を支援する」という役割をどの程度果たしているか、です。日本版では、日本のみならず、世界に向けても日本の大学の教育パフォーマンスをより深く理解できるように、指標を作成しています。これまで幾度か改善を重ね、前回の2019年版からは、測定方法の一つに学生調査を導入しました。同じく教育力に焦点を当てたアメリカ版とヨーロッパ版でも同様の調査を行っており、それらとの比較によって、日本の教

育の特質を知ることができます。もちろん、よりよいランキングにするためのご意見は常に受け付けています。\*メールアドレスやTwitterアカウントに皆さんの声をぜひお寄せください。

ランキングやスコアは  
分析してこそ意味を持つ

ランキングやスコアは、結果を見て一喜一憂するものではありません。その意味や傾向を分析して、貴学のパフォーマンス向上に役立ててこそ、意味があります。

一例として、私たちは今回の日本版の「国際性」分野の結果を用いて、旧帝大と「国際」と名が付く大学群を比較してみました。旧

「ランキングマネジメントサイクル」  
を導入した大学改革で  
自学のミッション達成を



Elizabeth Shepherd

Times Higher Education  
コンサルティング・サービス担当  
マネージングディレクター

エリザベス・  
シェパード

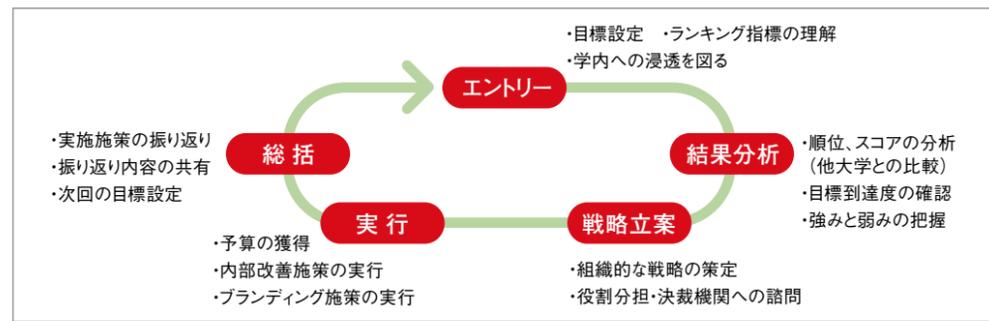
データを活用して探る  
自学の強みの生かし方

世界大学ランキングが高等教育に与えた影響の一つに、客観的な測定結果を活用して大学改革を推進する、パフォーマンス重視の改革文化を根付かせた点があります。

改革を効果的に行うため、ランキングを活用する方法が【図表1】に挙げた「ランキングマネジメントサイクル」です。「エントリー」とともに目標を設定し学内共有を図る「結果分析」により自学の強み、弱み、注力すべき分野を見いだす「具体的な「戦略立案」を策定」「実行」「総括」をし、次の目標を設定し「エントリー」…というサイクルを繰り返します。

このランキングマネジメントサイクルを実行して、世界でのポジションを上げた大学を2例紹介しましょう【図表2】。シンガポールの南洋理工大学は、2011年

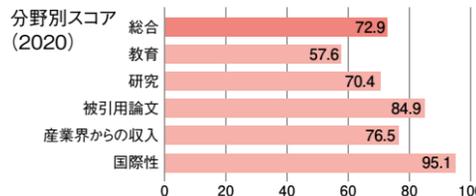
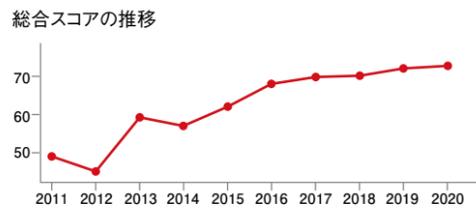
【図表1】ランキングマネジメントサイクル



【図表2】ランキングマネジメントサイクル活用例

\*データ提供: Times Higher Education (THE)

南洋理工大学 (シンガポール)



ニューサウスウェールズ大学 (オーストラリア)



の174位から、2020年は48位タイに。スコアを分析すると、「研究」の評判調査のスコアが大きく伸びています。2例目、オーストラリア・シドニーのニューサウスウェールズ大学は、2019年の96位タイから2020年に71位に躍進。「教育」と「研究」両方の評判調査スコアが伸びた結果です。

2大学は自学のどの分野を、世界のどの地域にアピールすべきか、過去のデータを基に緻密な戦略を立て、ブランディングキャンペーンを実行しました。その結果、例えばニューサウスウェールズ大学では、中国の「工学およびテクノロジー」分野、アジアの「臨床・前臨床および健康」分野からの評判が高まりました。漠然と「世界に発信」するのではなく、自学が持つ複数の強みを把握したうえで、各地域のニーズに沿って適切な強みを訴えたことにより、極めて効率的な広報を展開することができたのです。

どの大学も独自の強みを持っています。重要なのは、限られた資源の中でその強みを最大限に生かす、効率化の視点を持つことです。貴学のミッションを達成するために、包括的なデータ分析を軸としたランキングマネジメントサイクルを、ぜひ取り入れてください。

\*THEへの提案、質問(英語)は→ profilerankings@timeshighereducation.com  
ダンカン氏のTwitterアカウントは→ @duncan3ross